

令和6年度 社会福祉法人カルスト会事業報告

大規模な工事となった特別養護老人ホーム梶原ふじの家改修工事は、建物内の老朽化等箇所の追加工事を含め、ほぼ計画通りに進捗し、この3月に完了した。この工事は、建物改修、電気、設備・機器の更新、外構工事に及ぶ内容でありましたが、梶原町補助金、高知県介護基盤整備等事業費補助金の費用助成をいただき、施設内は新築同様に明るくなり、利用者にとって安心して生活し易い環境となり、大切に維持・管理して行くと共に、提供するサービスの質の維持・向上と職場環境の充実に努めて行きます。

各事業の運営実績は、収入面で報酬改定に伴い増収の計画でスタートしましたが、介護保険・障害福祉の両事業で、想定を超える利用者数・待機者の減となり、収入は当初見込みより大きく減少した。また、エネルギー価格や物価高騰による影響は、電気・燃料代のみならず、事業運営上で必要な器具や固定経費にも影響した。

社会福祉充実計画に基づく梶原ふじの家改修工事費用は、目的資産取崩し及び補助金収入を充て、この収支差額は当期資金収支差額に鑑みて、当期末支払資金残高に充当した。

収支状況や職員の確保など経営的には厳しい状況にあるが、障害) 梶原みどりの家については、令和7年度より定員の変更及び各種加算の取得により大きな収入増となる見込みです。今後の動向として、人口動態による労働者の減少、インフレーションとなれば好景気と見ることもできるが、需要と供給のバランスが崩れてしまうのではと危惧する。

安定した財務基盤の再構築と事業運営体制の強化に関しては、令和7年度から実行する「中長期事業運営・人材育成計画」について、委員会を組織し、1年間を掛けてトップダウンとボトムアップの両面から計画を策定した。Will Can Mustのスローガンと将来の目標を掲げ、目的値を出来る限り数値化し、この達成または実現に向けて、職員一人ひとりの取り組みとスキルアップ（職員が主体的に経営や事業運営に参画する）、部署・チームの機能性、業務の効率性・省力化・負担軽減などの取り組みを展開して行きます。

また、令和9年度より両施設で設置が義務化となる「生産性向上委員会」について、先駆的に準備を進め、両施設において体制を設けた。

人材（職員）確保について、事業運営体制では、人事異動を含め法基準以上の職員配置は維持できた。年度内の職員数の動態は、育児休業後の復職者及び臨時職員の雇用が2名あった中で、長く勤続した2名は年度末で退職となった。

また、臨時職員として勤務し、一般職員採用基準に達している有資格者等の3名及び事務員として外部から応募による2名について、令和7年度4月採用を決定した。

外国人材の受け入れ体制に関しては、職員宿舎の設計を終え、建築に向け設計承認の段階に進んだ。また、受け入れ支援機構とは、当法人が受け入れ団体として登録に向け、申請に必要な書類等の準備を進めた。外国人材を令和8年10月に梶原ふじの家に3~4名配置ができるよう進めている。

感染症対策関係では、各事業所において感染対策の緩和や一定の対策は継続して来た中で、職員の感染者が出たことに続き、梶原ふじの家では工事期間中とは言え年明けにクラスターとなった。また、季節外れのインフルエンザ等の流行もあるなど、今後も感染症対策については、様々な影響につながり兼ねない上で、適時適切な対応に努めて行きます。

1. 組織

1) 理事名簿

令和7年3月31日現在

	役職	氏名	住所	職業等	就任年月日
1	理事長	熊岡 健		団体役員	R5.6.19
2	理事	空岡 則明		会社役員	H23.4.1
3	〃	岡田 量		無職	H27.4.1
4	〃	岩崎 悦子		無職	H29.4.1
5	〃	掛橋健一郎		職員	R3.6.17
6	〃	川上 博明		NPO 従業員	R5.6.19

2) 監事名簿

令和7年3月31日現在

	氏名	住所	職業等	就任年月日
1	西村 建雄		自営業	R3.6.17
2	下村 昌彦		無職	R5.6.19

3) 評議員名簿

令和7年3月31日現在

	氏名	住所	職業等	就任年月日
1	西村 正義		建築業	H29.4.1
2	松山 栄喜		農林業	H29.4.1
3	中越 計清		〃	H28.5.25
4	宮本 友和		自営業	H27.4.1
5	中平 節子		無職	R3.6.17
6	沖田 佳久		〃	H29.4.1
7	中越 祥恵		〃	R4.6.9

4) 職員構成

令和7年3月31日現在

施設名等 職名	本部	居宅介護	梶原みどりの家	特定相談	梶原ふじの家	合計
事務局長	(兼1)					1
所属長・所長		(兼1)	(兼1)	(兼1)	1	4
事務員	2					2
介護支援専門員		2 (兼1)			2 (兼1)	4
相談支援専門員				(兼1)		1
サービス管理責任者			2 (兼1)			2
生活相談員					(兼1)	1
生活支援員						
看護師			3		4	8

					(非常勤 1)	
機能訓練指導員					1	
管理栄養士					1	1
栄養士			1			1
介護員			31 (嘱託 2) (臨時 5) (非常勤 6)		32 (嘱託 1) (臨時 3) (非常勤 9)	63
計 (兼務含む)	3	3	37	2	42	87

2. 理事会・理事定例会・評議員会

(1) 理事会開催状況

回	月 日	審 議 内 容	出席者数	
			理事	監事
1	令和 6 年 4 月 18 日	・特別養護老人ホーム梶原ふじの家改修工事の契約締結について	6	2
2	令和 6 年 5 月 30 日	・令和 5 年度事業報告及び決算の承認について ・令和 6 年度予算の補正について (本部、梶原みどりの家、梶原ふじの家) ・給与規則の一部改正について ・社会福祉充実計画の変更について ・評議員会の招集について	6	2
3	令和 6 年 10 月 24 日	・特別養護老人ホーム梶原ふじの家ナースコール設備更新工事の指名業者の選定について ・特別養護老人ホーム梶原ふじの家改修工事 追加工事の承認について ・社会福祉法人カルスト会職員宿舎の設計・工事監理業者の選定及び契約について ・令和 6 年度予算の補正について (本部、居宅介護支援事業所介護、梶原みどりの家、特定相談支援事業所、梶原ふじの家)	5	2
4	令和 7 年 3 月 19 日	・令和 6 年度予算の補正について (本部、居宅介護支援事業所介護、梶原みどりの家、特定相談支援事業所、梶原ふじの家) ・新規採用職員入職祝い金規程の制定及び定款施行細則一部改正について ・規則の一部改正について (就業規則、給与規則、臨時職員就業規則、パートタイム職員就業規則、役員等報酬及び費用弁償等に関する規則) ・障害者支援施設梶原みどりの家の定員変更について ・社会福祉法人カルスト会職員宿舎の建築承認について ・令和 7 年度事業計画及び当初予算の承認について ・評議員選任・解任委員の選任について ・令和 6 年度第 2 回評議員会の招集について	6	2

(2) 理事定例会開催状況

- ①令和6年6月27日、②令和6年7月25日、③令和6年8月28日
④令和6年9月26日、⑤令和6年11月25日、⑥令和6年12月13日
⑦令和7年1月23日、⑧令和7年2月27日

(3) 評議員会開催状況

回	月 日	審 議 内 容	出席者数
1	令和6年 6月17日	・令和5年度事業報告及び決算の承認について ・社会福祉充実計画の変更について	4名 (欠席3) 理事1名 監事2名
2	令和7年 3月28日	・役員等報酬及び費用弁償等に関する規則の一部改正について ・社会福祉法人カルスト会職員宿舍の建築承認について ・令和7年度事業計画及び当初予算について	6名 (欠席1名) 理事1名 監事2名

3. 内部監査等

- ① 決算監査 令和6年5月17日
② 内部監査 令和6年7月18日(第1四半期)
令和6年10月16日(第2四半期)
令和7年1月15日(第3四半期)
③高知県地域福祉部福祉指導課による監査
梶原みどりの家…令和7年3月7日～21日
(障害者総合支援法に基づく集団指導/オンライン)

令和 6 年度 カルスト会居宅介護支援事業所 事業報告

令和 6 年度の月平均請求件数は、前年度 65.6 件から約 12%減少し 53.4 件となった。新規利用者数については、前年度の 29 名に対し 24 名と 5 名減、利用終了者数は、施設入所や死亡などにより前年度の 29 名を大きく上回り 47 名となった。

利用者数減少の主な要因としては、病院や施設への入院、入所が大きな要因であるが、依然として高幡地区の介護医療院（旧療養病床）や特別養護老人ホームなどの過多による影響が大きい。また、介護者世代のボリュームゾーンである 60 歳から 70 歳代の就業率も非常に高く、仕事と介護を両立するワーキングケアラーの増加も施設志向の大きな動向となっている。

要介護度別の内訳としては、経過として要介護 1 から 3 までの方が中心となっていたが、要介護 3 の方の減少が著しく、この要因としては前述の施設の空床が多いことと介護者の施設志向が考えられる。

サービス種別におけるケアプラン作成件数については、例年通りデイサービス、福祉用具貸与を利用する方が多い状況が続いている。また、訪問系サービスは低調で推移している。

現状としては、比較的低額な利用料で利用できる介護保険 3 施設（介護医療院、介護老人保健施設、特別養護老人ホーム）について、高幡地区の状況はベッド数が充実していることから、今後も介護者が早期に入院、入所を選択する傾向は継続していくと考えられる。

（1）要介護度別ケアプラン作成状況

	要介護度 1	要介護度 2	要介護度 3	要介護度 4	要介護度 5	計
R6						
4 月	20	23	10	6	1	60
5 月	22	22	9	4	2	59
6 月	25	21	9	3	2	60
7 月	22	21	8	4	2	57
8 月	23	22	5	5	2	57
9 月	22	22	5	4	2	55
10 月	22	19	7	5	2	55
11 月	21	18	7	5	2	53
12 月	19	19	5	4	2	49
R7						
1 月	19	18	7	3	1	48
2 月	16	19	5	3	1	44
3 月	16	18	6	3	1	44
平均	20.6	20.2	6.9	4.1	1.7	^{641 人} 53.4

（令和 5 年度実績 平均 65.6 人）

(2) 利用者状況 (前年度末 71 人)

区 分	性別	R6 4	5	6	7	8	9	10	11	12	R7 1	2	3	計
新規利用者	男			2	2	2	1				1	1		9
	女	1	3	1	1	2		1	1	1	1		3	15
利用修了	男	3	2	1	4	2	1	1	1	2	1	1		19
	女	5	4	2	1	4	2	1	3	1	1	3	1	28
月末契約者数		64	61	61	59	57	55	54	51	49	49	46	48	▲23

令和6年度 障害者支援施設梶原みどりの家事業報告

令和6年度障害福祉サービス等報酬改定は、基本報酬、各種加算のプラス改定及び新規加算が設けられた中で、収入は利用者数の減少により年度当初の見込みより大きく下回った。利用者状況は、新規入所者2名、退所者は転所・入院・死亡により7名となった。待機者数は年度末で無しの状況であり、今後も利用者の確保は困難が予想される。

事業運営に関しては、職員の確保は最重要課題であり、人事異動、育児休業後の復職者1名、非常勤職員1名の雇用により、利用者数及び職員配置基準に照らし法基準以上の体制は維持できた。予算に関しては、介護・厨房・防犯カメラ機器の更新及び新しい給食ソフトの導入に係る費用の追加計上があったが、支出管理や不用額とならないよう適切な予算の執行に努めた。

サービス提供に関しては、利用者数に応じた現場のサービス提供体制の見直しを行い、各棟区分の職員配置体制から全棟型に変更し、職員一人ひとりが全利用者の支援等に対応できるよう、職員の意見等も踏まえ、試行期間を設け、業務内容の調整や職員動線の改善、ムダの削減や職員の負担軽減などに向け、これまで同様のサービスの質を維持すると共に、業務の効率化・省力化に取り組んだ。

また、本年度の報酬改定により、基準省令に利用者の意思決定支援の推進が規定され、次年度よりサービス担当者会やケア会議の開催に併せ機能するよう意思決定支援の体制を設けた。また、令和7年度から設置が義務付けられる地域連携推進会議については、要綱等の作成、関係機関・利用者家族の協力により、会議への参加承諾を得て体制を整えた。

施設行事・活動に関しては、感染対策の緩和を一定行い、ほぼ例年通りのかたちで実施した。今後も状況に応じ必要な感染対策は判断しつつ、可能な限り多くの方々との触れ合いや交流、外出などにより気分転換になる行事・活動となるよう努めて行きます。

職員研修(外部研修)に関しては、多くの機関で参集型の研修を実施するようになり、オンライン参加の選択も可能な状況になった。このところ専門分野の研修・講習が年度内において分散開催が増えており、施設や事業所にとっては参加調整の幅が広がったが、研修等費用の高騰も顕著であり、計画的な参加と、職員一人ひとりの能力に応じたキャリア形成を大切に取り組んで行く。

防火・防災に関しては、国・県共に東南海地震・南海トラフ地震に関する被害予測等の情報提供や報道の頻度は増えており、ほぼ確実に壊滅的な被害となる災害が起これば国民に呼び掛けている。BCPの基本に予測できる最大限の被害想定があるが、想定・想像を超える状況になることが濃厚とする上で、施設としては、初期・初動体制の再検討、自助力で事業継続できる期間を3日から7日間にするなど非常時の体制を高めることが必要であると判断した。このことにより、マニュアルの見直し、防火防災訓練では十分ではない・機能性として弱い・機能し難いなどの部分に絞った訓練を実施した。実際には相当な時間・手間が掛かり煩雑化することや、状況によってはパニック状態になることも想定でき、今後も実際想定型の訓練を繰り返し実施し、実際に機能する経験値となるよう取り組んで行く。

1. 入所者状況

		性別	年度末	R6	4	5	6	7	8	9	10	11	12	R7	1	2	3
人数 (月末)	男		40	40	38	38	38	37	36	36	36	36	36	36	36	36	36
	女		23	23	22	22	22	22	22	22	22	22	21	21	21	22	22
合計			63	63	60	60	60	59	58	58	58	57	57	57	57	58	58
内 訳	入 所	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	計		2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	退 所	男	▲5	0	▲2	0	0	▲1	▲1	0	0	0	0	0	0	0	▲1
		女	▲2	0	▲1	0	0	0	0	0	0	0	▲1	0	0	0	0
計		▲7	0	▲3	0	0	▲1	▲1	0	0	▲1	0	0	▲1	0	▲1	
増/減 (▲)			▲5	0	▲3	0	0	▲1	▲1	0	0	▲1	0	0	1	0	

(1) 稼働率

事業別 月	生活介護 (定員 80 人)	入所支援 (定員 80 人)	短期入所 (定員 8 人)
令和 6 年度	72.4% 57.9 人/1 日	72.5% 58.0 人/1 日	4.1% 0.3 人/1 日
前年同期	81.2% 64.9 人/1 日	81.1% 64.9 人/1 日	8.6% 0.7 人/1 日

(2) 日中一時支援事業 利用実績なし。

(3) 年齢別構成

20～24 歳	25～29 歳	30～34 歳	35～39 歳	40～44 歳	45～49 歳
0 人	0 人	0 人	0 人	3 人	2 人
50～54 歳	55～59 歳	60～64 歳	65～69 歳	70 歳以上	80 歳以上
3 人	7 人	11 人	13 人	16 人	3 人

(4) 障害支援区分別利用者数

障害支援区分	軽度						最重度	
	1	2	3	4	5	6	計	
男			3	9	7	16	35	
女			3	1	4	15	23	
計			6	10	11	31	58	
比率 (%)			10.3	17.2	19.0	53.5	100.0	
平均障害支援区分							5.2	

(5) 入院状況

(前年度)

月	R6	4	5	6	7	8	9	10	11	12	R7	1	2	3	計
人 数	6	2	0	1	3	3	2	3	1	2	2	3	4	30	

													(24)
日 数	31	30	0	13	40	45	40	49	6	17	25	74	370 (191)

令和6年度 カルスト会特定相談支援事業所 事業報告

令和6年度末の契約者数は、前年度末より8件減少し64件となった。内訳は、通所サービス利用の新規契約1件、訪問・通所サービスの利用終了の2件、施設退所（入院、転所、死亡）の7件となった。事業実績は、定期の計画作成及びモニタリングのほか、既契約者の在宅生活、通所サービス利用の障害者で、家庭・介護事情、障害の重度化により施設入所利用への支援をした2件があった。

計画相談支援は、障害者の安定した日常生活とサービス利用・継続に向けた支援が基本にあるが、今年度はサービス利用前の訪問・相談・対応やサービス利用継続支援に関する対応・調整等の件数が例年より若干数増えた。障害者本人の意思や考えは尊重する上で、自己の生活スタイルや考え方などが社会性・常識的に見てミスマッチしている例や、サービスの内容及び利用目的の認識や理解度が十分でないことで、複数回の訪問や説明、サービス提供事業者との相談・調整に及んだ。

現状の人口減少動態は、サービス利用者数の減少にも影響している。同時に、利用者の高齢化、障害の重度化などにより、サービス提供事業者ではより配慮した細かな支援が求められるほか、今後サービス利用継続支援についても複雑化や難しい状況になることが予想され、地域の限られた資源の活用や関係機関等と連携を図って行きます。

1. 利用契約・サービス利用計画・モニタリングの実績

◇相談支援契約（前年度末：72件）

	契 約		サービス利用計画			モニタリング			訪問件数
	新規	解約	入所者	地域	計	入所者	地域	計	
R6									
4月	0	0	3	3	6	3	3	6	12
5月	0	▲3	2	0	2	8	0	8	10
6月	0	0	0	1	1	17	1	18	19
7月	0	0	0	3	3	5	0	5	8
8月	0	▲1	2	0	2	3	2	5	7
9月	0	▲2	0	0	0	11	4	15	15
10月	0	0	3	1	4	4	3	7	11
11月	地域 1	0	0	1	1	6	1	7	8
12月	0	▲1	2	0	2	17	4	21	23
R7									
1月	0	0	0	1	1	4	1	5	6
2月	0	0	1	1	2	2	0	2	4
3月	0	▲2	1	1	2	15	2	17	19
合計	1	▲9	14	12	26	95	21	116	142
契約 件数	64		施設入所：50件 地 域：14件（就労継続B型、居宅介護、短期入所）						

令和6年度 特別養護老人ホーム梶原ふじの家 事業報告

今年度実施の施設改修工事は、工期が5月から翌3月までの11ヵ月に及び、建物改修・電気設備等機器の更新・外構工事・ナースコール設備更新の大規模改修工事であった。建物改修では、全室の窓は複層ガラスになったことにより断熱性が向上したこと、空調設備の更新では、各室ごとに細かな温度設定ができ、居室環境の快適性が向上した。ナースコール設備更新では、全床に見守り機器を配備し、迅速な対応も可能となったこと、ナースコールの受信がスマートフォン受信になったことで、発信場所が一目で確認でき、職員の業務負担軽減につながることで、看取りケア時の使用では、リアルタイムに呼吸・脈拍数等の情報確認やスマートフォンへの通知が可能となるため、安心して他の業務が行えるなど、職員の心的負担軽減も期待できる。また、厨房機器の全面的な更新、温冷配膳車を導入したことにより適温での食事提供が可能になった。更に、停電時に際して、ガス湯沸かし器、ナースコール設備については、非常用電源を接続し、停電時でも自家用発電機器が作動している間使用できることになった。

この工事費用に関しては、梶原町補助金ほか、高知県介護基盤整備等事業費補助金により、約1億4千万円の資金確保ができた。

事業運営については、令和6年度報酬改定により、4月からサービス費、8月からは居室使用の単価がアップしたが、入所待機者が少ない状況が長く続いたこと、1月当初には新型コロナウイルスの集団感染があり、この後インフルエンザの罹患者が多数あった影響で短期利用者が減少したこと、退所者が例年になく多くあり、定員割れが続き、収入は当初の見込みを大きく下回った。

また、施設改修工事のため、生活環境的には限られた空間で生活しなければならない状況であったこと、感染対策を強化した期間もあった中で、利用者をはじめ多くの方々にご迷惑をお掛けし、敬老会の開催ができなかったことや、多くの活動を縮小または中止とした。とても楽しみにしていた行事や活動がなかったことは、利用者ほか寂しい思いをさせることとなった。次年度からは、例年通りの行事の開催、各活動についてもご家族にお越しいただき盛大に開催する計画である。

利用者数の変動については、入所者は24名、退所者は34名、内、施設での看取りを希望された方は14名であった。改修工事中ではあるものの、面会ができる環境づくりに努め、職員の看取りケアに対する意識や対応力は向上しているとする。今年度退所者が例年より多かったことは、全利用者の4人に1人以上は95歳以上であり、様々な疾病のある利用者も多く、今後も利用者の日々の状態把握に努め、梶原病院とも連携して早期対応に努めて行かなければならない。

中長期事業運営・人材育成計画については、毎月委員会を開催し、今後取り組むべき課題等について協議・検討を行った。法人理念に基づき、事業運営及びサービス提供体制の維持・構築、安定した事業運営に向け、将来のあるべき姿を目指し取り組む内容となっており、今後の人口動態の影響により、生産年齢人口の減少、高齢化の加速など懸念する上で、近隣地域及び行政の動向も注視しながら関係機関とも情報共有を図り取り組んで行く。

1. 利用者状況

(1) 市町村別入退所状況・年度末入所者数

単位：人

区分 市町村	入 所			退 所			令和7年3月末		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
栲原町	4	18	22	10	21	31	11	43	54
南国市	0	0	0	0	0	0	0	1	1
津野町	0	2	2	0	1	1	0	2	2
西予市	0	0	0	0	1	1	2	2	4
宇和島市	0	0	0	0	0	0	0	1	1
鬼北町	0	0	0	0	1	1	0	1	1
計	4	20	24	10	24	34	13	50	63

(2) 介護度別一覧

単位：人

要介護度 3	24	令和6年度 平均介護度 3.71 (令和5年度 平均介護度 3.75) 令和6年度 年間在所延日数 25,325日 (令和5年度 年間在所延日数 25,543日)
要介護度 4	33	
要介護度 5	6	

(3) 入院・外泊等状況（請求ベース）

	令和6年度	令和5年度
延べ日数	1,186日	908日
月平均	98.8日	75.7日
1日当り	3.2人	2.5人

(4) 入退所状況

単位：人

入所	自宅より	8	
	病院より	10	
	他施設より	6	
	計	24	
退所	死亡	25	
	その他	9	
	計	34	

(5) 男女別年齢構成

令和7年3月31日現在

年齢範囲	男	女	構成比(%)	最高齢	最年少	平均年齢
71 ~ 75	3	2	男：21%	男：91歳	男：73歳 女：75歳	男：82.3歳
76 ~ 80	3	3	女：79%			

81 ~ 85	2	6		女：104歳		女：90.7歳
86 ~ 90	3	11				
91 ~ 99	2	23				
100以上	0	5				
合計	13	50				

(6) 短期入所利用状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
短期入所	14	15	8	10	11	12	14	18	16	9	11	13	151
短期予防	0	0	0	0	0	2	0	1	1	1	1	3	9
計	14	15	8	10	11	14	14	19	17	10	12	16	160
利用日数	112	125	82	53	88	126	111	133	166	76	86	124	1,282
1日当り	3.5人												